

## 八ヶ岳：南沢小滝

- ◆日程 2019年2月23日(土)
- ◆メンバー L：佐藤、河野、岡村、大山、柳、大塚
- ◆天候 晴れ

<<前半>>

朝5時、佐藤車、柳車、岡村車で瀬谷駅集合。全員、河野車に乗り換えて出発。渋滞があったが、美濃戸口からの林道も河野車で難なく走破し、南沢を歩き、午後0時、小滝前に着く。

すると違和感がある3人組(男2,女1)がいる。肩を組んで立ち、真ん中の男性(以下「Aさん」という)は震えていた。堪らず、河野さんが声をかけた。Aさんは小滝をリード中に確保支点の間隔を広くとりすぎた上で墜落し、グランドフォールしたという。

Aさんは「寒い」と言い、「日の当たるところに行きたい」と言う。私はその時の河野さんの使命感に満ちた横顔が忘れられない。河野さんは、「ツェルト持っている人は出して」「担いでひなたまで運ぼう」と指示を出した。矢継ぎ早だ。私はAさんのアイゼンやギア類を外してから背負い、大山さんが雪上につけたトレースを踏んで運んだ。ひなたでは柳さんや佐藤さんが出したツェルトやシートでAさんを包み、ダウンウェア等をそれらの間にはさみ込んだ。

ここでわれわれは柳さんが専門的知見を遺憾なく発揮するのを目の当たりにする。Aさんに触れて声をかけて状況を聞き、大腿骨付近に損傷があると認め、プラティパスで湯たんぽを作ることや、足が開かないように左右を固定することを指示し、大山さん、佐藤さんが応じた。

この間、3人組の他2名(3人はK市の山岳会の仲間と、このころ判明)は携帯電話で県警と連絡を取ってヘリを要請した。県警は、ヘリを飛ばすか検討するとの回答だった。

河野さんが「温かいものを飲ませた方がいい」と指示して大塚さんが応じ、柳さんが「なにか食べると体が温まりますよ」と言うので私がAさんの口にチョコを入れた。指示が2系統になったとき、河野さんが「ああそうか、専門家がいたんだ」と言って、微笑した。

このころになると、Aさんはだいぶ落ち着きを取り戻し、笑顔も出るようになった。現場の雰囲気も和んできた。私は日赤の救助講習で習ったようになるべく気楽な感じで声をかけて励ました。また、静岡のリスクマネジメント講習で習ったように3人に断ってから写真を撮って記録を取るようにした。

そうこうしていると午後1時ころ、県警から「30分でヘリが行く」との連絡があった。待っていると30分は長く感じたが、定刻1時半、ヘリは来た。長くホバリングし、その間、強風や折れた枝が飛んでくるのに耐えた。しかし、いったん、ヘリは現場を離れ、拍子抜けする。

しばらくしてヘリが舞い戻り、救助隊員を2名おろした。救助隊員から「Aさんを上空が開けた地点に運ぶのでシート搬送を手伝ってほしい」と旨、要請を受けた。われわれは、まさに先週、装備点検でシート搬送訓練をしていたので、「シート搬送って何ですか」などと眠たいことを言わずに、即応できた。

搬送後、救助隊員から「Aさんを残してここを離れてください」と指示を受け、遠くから見守っていると、午後2時ころ、あっという間にヘリがAさんをつりあげ、彼方へ運んで行った。

山の友としてAさんの早期回復を願ってやまない。搬送訓練の成果が出たこと、河野さんの適正迅速な指示、柳さんの専門的知見、それに応じる皆の熱意、そして何よりもそういう仲間がこの会にいること、これらは、いずれも、誠に誇らしいことだと私は思う。

(記：岡村)

<<後半>>

Aさんの搬送後、急いで腹ごしらえ。岡村さんお手製のスープと柳さんの本場キリマンジャロコーヒーが冷えた体に染み渡る。搬送を目の当たりにして及び腰になっていた気持ちが前に向いたところで、早速アイスクライミングの準備に取り掛かった。まず河野さん、佐藤さん、岡村さんが小滝を左側から登り、ロープを木に括り付ける。更に小滝上中央部にアイスクリューを打ち込んで支点を作ってロープを垂らして準備完了。

岡村さんが軽く小手試し。やはり岩登りとは勝手が違う様子。そこで、河野さんが模範演技を見せてくださった。まず2本のアイスバイルを自分の頭上高目に打ち込んでから、そこに自分の体を引き寄せるようにアイゼンの前爪を引っかけながら脚をステップアップしていく要領。

大山さん、柳さん、そして大塚の順でトライ。アイスバイルがなかなかうまく刺さらない。そうこうするうちに滑り落ちたが、やはり上に支点が上にある状態でビレイして頂いていると安心感が違う。アイスバイルが最小限氷に掛かれば3点確保で少しずつ登れるようだ。間もなく握力が低下し、アイスバイルを打ち込む力も失われた。最後は膝もつきながら遮二無二登り切った。その後、他の皆さんは姿勢よく軽やかに上がっていく。力が抜けているくらいが丁度よい様子だ。自身を含む初参加組が満足できたところで時間切れ。個人的には、体験できれば十分と思っていたが、次はもっとスマートに登りたいと欲が出てきた。

急いで撤収して日没直前に出発。途中からは夜間歩行訓練となった。

車での帰途は渋滞なしで、途中夕飯も取りながらのゆったりとした道のり。自宅は24時過ぎとなり、4時のピックアップから全行程で20時間！長かったが皆と一緒に充実した一日を過ごせた。そして全行程を運転して下さった河野さん、有難うございました。

(記：大塚)

CT：瀬谷駅南口 5:00 - 美濃戸山荘 10:10 - 南沢小滝 11:50/17:30 - 美濃戸山荘  
18:40



救助搬送と小滝アイスクライミングと貴重な体験ができました。